

**環境表示の  
あり方  
リコーグループの  
事例**

**RICOH**  
imagine. change.

**2026年6月2日  
株式会社リコー  
佐藤 多加子**

## 1. 取り組み事例

### 1) 既存事業

- ①MFPの環境配慮性能の説明・表現
- ②MFPのライフサイクルでの環境負荷削減の説明

### 2) 新規事業

- ①ガイドラインの整備
- ②社内への周知

### 3) 業界の取り組み 一般社団法人 ビジネス機械・情報システム産業協会 (JBMIA)

- ①JBMIAからのアナウンス
- ②JBMIAでの情報共有

## 2. 課題

- 1) 海外の訴訟リスク

# 1. 1) 既存事業 ①MFPの環境配慮性能の説明・表現

## 注記によるエビデンス提示・透明性の確保

[https://jp.ricoh.com/release/2023/0206\\_1](https://jp.ricoh.com/release/2023/0206_1)

■ **タイトル：業種業務ごとの課題解決に貢献し、DXを支援するフルカラー複合機「RICOH IM C6010/C5510/C4510/C3510/C3010/C2510/C2010」を発売～ソリューション連携と業界最高の環境性能でお客様へ価値を提供～**

### ■ 本文（抜粋）

本製品は、省資源・省エネルギー化によりライフサイクル全体での環境負荷（カーボンフットプリント\*1）を前身機より約27%\*2削減し、お客様の事業活動での環境負荷低減に貢献します。業界トップ\*3となる本体樹脂総重量の約50%（重量比）に回収材（再生プラスチック）\*4を使用している

### ■ 注記（抜粋）

\*1 カーボンフットプリントはライフサイクルの全体（原材料調達から廃棄・リサイクルまで）で排出された温室効果ガスの量を、CO2量に換算した値。

\*2 RICOH IM C6010およびRICOH IM C6000（前身機）本体で算定したもの。

\*3 2023年1月25日現在 米国・連邦政府が調達要件として採用している環境評価システム「EPEAT（Electronic Product Environmental Assessment Tool）」のA3複合機登録情報において。リコー調べ。

\*4 一度使用されたプラスチックを回収し、再利用して作られたプラスチックのこと。



「RICOH IM C3010」（オプションを装着したもの）

# 1. 1) 既存事業 ②ライフサイクルでの環境負荷の削減

原材料調達から廃棄リサイクルに至るまでの各段階で環境負荷を低減し、  
カーボンフットプリント(CFP\*<sup>1</sup>)を約27%\*<sup>2</sup>削減します。

\*1: CFP(Carbon footprint of products)

\*2: 当社前身機比



# 1. 1) 既存事業 ②ライフサイクルでの環境負荷の削減

原材料調達から廃棄リサイクルに至るまでの各段階で環境負荷を低減し、  
カーボンフットプリント(CFP\*<sup>1</sup>)を約27%\*<sup>2</sup>削減します。

\*1: CFP(Carbon footprint of products)

\*2: 当社前身機比



リリース時期に間に合うように  
再生プラスチックの原単位を作成  
CFPを表示できるようにしました

000t\*  
※ 推定値です

# 1. 2) 新規事業 ①ガイドラインの整備

## 社会課題解決に資する新規事業の早期立ち上げをサポートするための「環境表示ガイドライン（マニュアルとチェックリスト）」整備

注) 2025年度の体制における活動紹介

### マニュアル

#### 環境表示ガイドライン

-グリーンウォッシュ防止マニュアル-  
用  
Ver1.0

目的、スコープ  
遵守ポイント、用語・シンボル使用時  
事例など

### チェックリスト

#### 環境表示ガイドライン

-グリーンウォッシュ防止チェックリスト-  
用  
Ver1.0

目的、スコープ  
環境省の環境表示ガイドラインに則っているか？  
用語・シンボルがISO14021に則っているか？  
などをチェックリストで確認

# 1. 2) 新規事業 ②社内への周知活動

## 「環境表示ガイドライン」の周知

「環境表示  
ガイドライン」  
(令和8年3月改定版)  
の活用

最新の環境表示ルール  
を参照しましょう

RICOH  
imagine. change.

2

正確で分かりやすい伝達  
環境表示ガイドラインは、環境配慮を正しく分かりやすく消費者に伝えます。  
誤解やグリーンウォッシュを防止します。

法令リスク回避の実務ツール。  
ガイドラインは法令リスク的  
なツールです。

幅広い対象範囲  
商品・サービスのニュース!  
幅広い環境表示に対応

信頼と選ばれる理由  
環境配慮をコストやリスク  
える土台となります。

なぜ参照するのか?  
使う価値

5つの基本項目  
(ガイドラインP.15参照)

- ① あいまいな表現や環境主張は行わないこと
- ② 環境主張の内容に説明文を付けること
- ③ 製品のライフサイクル全体を考慮すること
- ④ 環境主張の検証に必要なデータ及び評価方法が提供可能で、情報にアクセスが可能であること
- ⑤ 製品又は工程における比較主張はLCA評価、数値等により適切になされていること

1. ESGセンター  
全社LCA活用推進WG
2. 品質統括センター  
安全・環境のコンプライアンス相談時

ガイドラインを読むのは大変、 は図解やコラムで概要を把握できます

① あいまいな表現や環境主張は行わないこと

✗ 単独で使用できない表現

環境に安全  
環境にやさしい  
地球にやさしい  
無公害  
グリーン  
自然にやさしい  
オゾンにやさしい  
持続可能  
〇〇を含まない など

望ましい表現例

製品本体に  
再生プラスチック70%使用

年間消費電力量を約5%削減  
※当社従来品▲▲と比較

カーボンフットプリント  
XX kg-CO2e  
牛乳1Lあたり  
算定対象は 原材料調達～廃棄・  
リサイクル ♪算定報告書はこちら

② 環境主張の内容に説明文を付けること

〇社はプラスチック削減に取り組んでいます

説明文を付  
けるよ

比較可能で、比  
較対象が明確

主張部分が  
明確

【合理的な根拠(例)】  
試験成績書  
サファイア®証明  
(原料証明書、納品書など)  
学術文献

従来品の重量より軽量化(主要部  
は軽量化)のプラスチック重量を5g減らし、  
再生材料を2.0%以上配合しました。

製品又は包装中の重量比  
※変動する場合は以上とし可

注)③～⑤もガイドラインのP.15に図解されています

## グリーンウォッシュ教育 (全社LCA活用推進WG)

- ・事例や各国の法令・ソフトローの紹介
- ・グリーンウォッシュを恐れるあまり開示・訴求を控えるのではなく、指摘されたときに真摯に対応することが重要



# 1. 3) 業界：①JBMI Aからのアナウンス

## お客様に誤解されないように 同一表現を各社で活用しています

2023年度、グリーン購入法の「コピー機等」の品目でCFP開示が判断の基準となった。

CFP開示された値は、現時点では、自社同士の比較はできるが、他社比較はできないこと、グリーン購入法の基準には記載できないことから、各社が同一の表現で説明できるよう、JBMIAのサイトを立ち上げ、製品カタログにURLを引用するなど、各社で活用中

\*JBMIA

名称：一般社団法人 ビジネス機械・情報システム産業協会

英文名：Japan Business Machine and Information System Industries Association

略称：JBMIA

<URL> <https://www.jbmia.or.jp/whatsnew/detail.php?id=1733>

2024 年度グリーン購入法に関する当協会からのお知らせ

2024年3月7日

一般社団法人ビジネス機械・情報システム産業協会  
(JBMIA)

2023年度にグリーン購入法のコピー機等\*1においてCFP（カーボンフットプリント）の値を開示することが判断基準の基準値1に追加\*2されたことに伴いCFPの値の比較の考え方について、お客様に正しくご理解いただけるようご説明します。

コピー機等は、エコマークなどの環境ラベル基準を殆どの機種が認証取得し、ライフサイクルにおける環境負荷低減を積極的に進めてきました。

CFPについても、SuMPO（一般社団法人 サステナブル経営推進機構）\*3と協力してPCR（製品カテゴリールール）\*4を定め、各社がCFP値の算出・公開が出来るように取り組んでいます。

しかしながら、このようなCFPの値の比較は、異なるメーカーの製品間では、以下のような理由から通しておりません。

- ・コピー機等は、千点以上の部品から構成され、細かい材料や部品の重量把握方法は統一されていないこと
- ・業界共通のPCRのルール内ではあるものの、材料や部品の重量からCO2への換算方法（原単位の適用方法）が各社により異なること
- ・印刷速度レベルなどが同じ製品群にあっても、各社の製品モデルがもつ機能の違いによりCFPの値が大きく変わるケースがあること

このような理由により、CFPによる異なるメーカーの製品との比較はふさわしくないと現状JBMIAは考えておりますことをご理解ください。

JBMIAでは、CFPによる異なるメーカーの製品との比較が可能となるようにしていくことが課題と認識しており、グリーン購入法が改正される以前（2022年以前）からSuMPOとも協議しながら、ISO規格\*5に則り比較可能性を高めるべく様々な議論を進めているところです。

- \*1：コピー機、複合機、拡張性のあるデジタルコピー機
- \*2：本件は2023年度に追加され、経過措置期間として1年が設定されていた
- \*3：<https://sumpo.or.jp/index.html>
- \*4：コピー機、複合機を含む画像入出力機器に関するPCRは以下のリンクご参照ください  
[https://ecoleaf-label.jp/pcr/pcr\\_list.php?pcr=PCR&category%5B%5D=40&release=%E5%85%AC%E9%96%8B&keyword=](https://ecoleaf-label.jp/pcr/pcr_list.php?pcr=PCR&category%5B%5D=40&release=%E5%85%AC%E9%96%8B&keyword=)
- \*5：ISO14025、ISO/TS14067、ISO14040、ISO14044、ISO/TS14027

## 北米 州法の包装材規制に対して 各社で情報を共有し、グリーンウォッシュにならないように配慮

### ■ 広告・リーフレットにおける違反となる表現事例（パッケージ上に記載しないほうが良い）

「earth friendly（地球にやさしい）」

「environmentally friendly（環境にやさしい）」

「recyclable（リサイクル可能）」

「environmental choice（環境に配慮した選択）」

「ecologically friendly（生態学的に配慮されている）」

「ecologically sound（生態学的に健全）」、「environmentally sound（環境的に健全）」

「environmentally safe（環境に安全）」、「ecologically safe（生態学的に安全）」

「environmentally lite（環境負荷が軽い）」、「green product」

「Collected by local recycling programs.（自治体で回収されています）」

「Check locally.（自治体に確認してください）」

### ■ 環境配慮の対象が、中身の製品のことなのか、包装のことなのか分かるようにする

### ■ 根拠を表示できることが重要

## 2. 課題 1) 海外での訴訟リスク

- ・米国では大手企業が訴訟を受けている事例も散見される
- ・米国連邦取引委員会（FTC）の“Green Guide”に基づく環境表示の監視強化の流れの中で起きた訴訟もある（#2, #3）

### 1. 大企業の訴訟事例（カーボンニュートラル・オフセット、再エネ使用率、リサイクル可能性、有害物質含有）

<https://truthinadvertising.org/articles/by-the-numbers-greenwashing-class-action-lawsuits/>

### 2. カーボンニュートラル広告に対する訴訟増加

<https://www.winston.com/en/blogs-and-podcasts/class-action-insider/carbon-neutral-advertising-may-lead-to-litigation>

### 3. 州政府・市民団体によるプラスチック業界への訴訟（リサイクル可能、持続可能な素材、環境に優しいなど）

<https://kentuckylantern.com/2024/06/19/states-citizens-suing-plastics-industry-alleging-greenwashing-misleading-claims-about-recycling/>

グリーンウォッシュに気を付けること **リスクを減らす**



環境訴求ポイントを特定することにつながる



効果的な環境訴求ができる

**機会が大きくなる！**

**まずは「環境表示ガイドライン」を  
参照しましょう！**



**RICOH**  
imagine. change.